

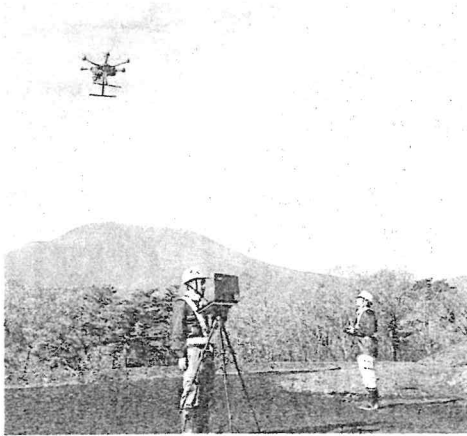
# パスコ、測量需要開拓へ

# 3D図面作製の専門部署

航空測量大手のパスコは建設現場にICT（情報通信技術）を導入、生産性を引き上げる「アイコンストラクシオン」への対応を強化する。3次元（3D）で図面を作製できる専門部署をこのほど設置、地方の測量会社やドローンの操縦者育成塾と組み、測量需要の掘り起こしを狙う。得意の航空測量技術を駆使して建設現場の生産性向上につながる図面を作製、顧客を開拓する。2020年3月期に部門売上高を前期比4倍の20億円に拡大する。

パスコは地方の測量会社などと組み、3次元測量の仕事を受注する

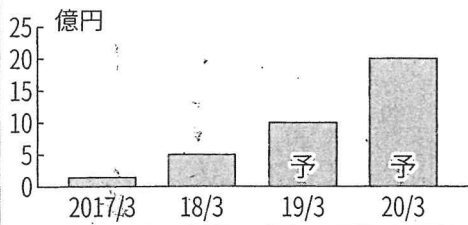
パスコは春から、3Dデータで管理する技術「CIM（アイコンストラクシオン・モデリング）」の図面データ作りの専門部署を沖縄の拠点に設け



## 来期の部門売上高

## 4倍の20億円めざす

パスコは3D測量事業を強化する



た。現在5人だが、3年以内に30人まで増やす。データ作製担当者を沖縄の拠点に集約し、生産性を高める。前期までは東京都内の部署が担当し

ていたが、案件急増に対応した。3Dデータの作製は測量範囲や精度などにより金額は異なるが、1件あたり少なくとも数十万円得られる。高い場合では数千円の場合もあるという。18年3月期のアイコンストラクシオン関連売上高は前期比5倍の5億円まで拡大。今期は売上高10億円が目標だ。案件獲得も急ぐ。提携する建機レンタルの西尾レントオールや地方の測量会社と共同でICTを進めるゼネコンなどから仕事を受注する。パスコはドローンによる測量写真ノウハウを提供。各社に撮影業務を委託する。委託先がうまく撮影できるように工夫した。日立システムズと9月から、作業項目のタブレット表示や、撮影の不備を確認できる支援システムを整える。

西尾レントなどは建設現場近くに事務所を設けている。現場担当者が自ら作業すれば撮影時間が短縮でき、原価低減につながる。価格競争力を高められると判断した。撮影業務の担い手も開拓する。産業用ドローン操縦者を全国で育成するJUAVACドローンエキスパートアカデミー（本部、東京・渋谷）と連携。パスコはJUAVACの講義内容の一部を監修する。その代わりにパスコと組んで3D測量用の撮影を請け負う人材を紹介してもらう。

国土交通省がアイコンストラクシオンを掲げて以降、3D測量に注目が集まっている。ドローンだけでなく、衛星や航空機による計測といった多彩なメニューを持つパスコは商機ととらえ、同事業を注力していく。

（高橋徹）